



審査員特別賞

株式会社 ヤクルト本社  
「青少年育成キャンペーン『少年野球教室』  
への支援」事業



株式会社 ヤクルト本社  
直販営業部  
杉浦亨さん



株式会社 ヤクルト本社  
直販営業部  
青柳進さん

プロ野球で活躍したOB選手が遊技業界の 社会貢献活動に協力

ヤクルトスワローズOB選手の少年野球教室

ホールでお客様が口にする飲料の取引を通じ、全日遊連の指定商社として遊技業界と長い協力関係にあるのが、ヤクルト本社である。ヤクルト本社はまた、当機構の設立当初からの賛助会員であり、さらに都府県、支部組合、組合員ホールなど、さまざまなレベルで行われている業界の社会貢献活動にも積極的に協力している。そのひとつが、所有するプロ野球球団・東京ヤクルトスワローズのOB選手による少年野球教室での指導という支援事業である。

これからの日本や世界を担っていく青少年の育成は、当機構はもとより、業界が取り組んでいる社会貢献活動の大きな柱の一つである。

その手段として、スポーツの持つ力を活用することは有効である。とくに野球のようなチームスポーツは、仲間や相手を思いやり、ルールやマナーを守ることの大切さや、我慢して努力することのすばらしさや価値を教えられる。その指導を、かつてプロ野球で活躍した選手たちが担ってくれることは、たとえその選手の現役時代を知らない子どもたちであっても、胸躍る貴重な体験であることは間違いない。

ヤクルト本社では、各地の県遊協や支部組合などからの依頼を受け、直販営業部に勤務する東京ヤクルトスワローズに在籍経験のある4名の社員を現地で開催される少年野球教室に派遣し、指導に当たっている。5年前に始まった事業だが、平均すると年間20回ほどの開催数になるということで、主に土・日の週末に各地に出向いている。基本的には1カ所の野球教室に3名体制で臨み、150名程度の小学生の子どもたちを相手に約3時間の指導を行う。

野球に取り組む姿勢や礼儀を中心に指導

「東京ヤクルトスワローズのOBとして、ヤクルトのユニフォームを着ていきます。しっかり野球を教えるとい



礼儀や野球に取り組む姿勢を重視して指導



ヤクルトOBの指導を真剣に聞く子どもたち

う姿勢で、それなりに厳しく指導します。でも、野球の上手な子どもを育てることが目的ではありません。下手な子どもや、伸び悩んでいる子どもが伸びるためのきっかけになればいい。そのためには野球に取り組む姿勢や挨拶などの礼儀、ちょっとした性格の変化が大切です。それが今後、生きていくうえでの人間性の向上にもつながる。最近では自分の子どもに対して、そうしたことをきちんと伝える親が少なくなってきたように思います。ですから、一時的ではありますが、その時間だけは親になり代わって指導するという気持ちで臨んでいます」

そう語るののは、この支援事業のまとめ役ともいえる直販営業部の杉浦亨さん。同営業部の青柳進さんは、「コーチの中には間違った指導をしている方もいますし、なぜそうなるのかという技術の裏づけとなる理由をわからない人もいますので、そういうことは丁寧に指導しま

す。子どもを含め、みなさんが熱心に聞いてくれるのは、やはりユニフォームの力が大きいですね。今は4名ですが、もう少し規模を広げられれば、もっと楽しいものになっていくような気がします」と話す。

社会貢献、地域貢献に熱心に取り組んでいることをもっと地域の人々や社会一般に知ってもらいたいという業界の声を聞き、ビジネスパートナーとしてそれを支援する一環として始めたプロ野球OB選手の野球教室指導だが、それも直販営業部を持ち、日ごろから業界と良好な関係にあるからこそ可能になったことと思われる。「これからは長く続けることで、遊技業界の社会貢献活動の伝統づくりに貢献していきたい」と、杉浦さんや青柳さんは今後の抱負を語った。この事業が同時に、ヤクルト本社としての社会貢献活動の一環として広く社会に認知されていけば、お互いにとって最高の形になるであろう。